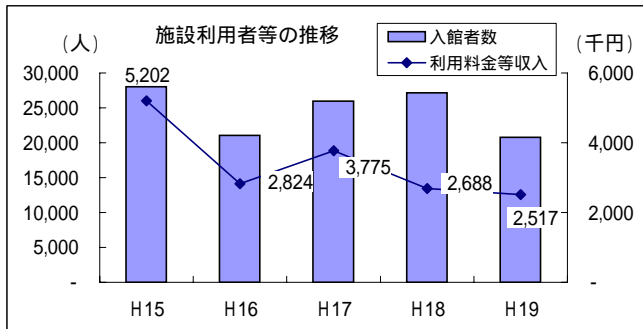


若狭歴史民俗資料館は若狭の魅力の玉手箱!!

所在地	小浜市遠敷2-104		
設置年月日	昭和57年10月1日		
施設の種別	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	若狭地方の考古・歴史・民俗などの調査研究・収集・保管および展示等を行い、この地方の豊かな文化遺産の保護および県民の文化の向上に寄与することを目的とする。		
概要 (構造、面積、 主な機能)	鉄筋コンクリート2階建 延床面積 3,218.75㎡		
職員数	職員6人 非常勤嘱託2人 アルバイト2人 計10人		

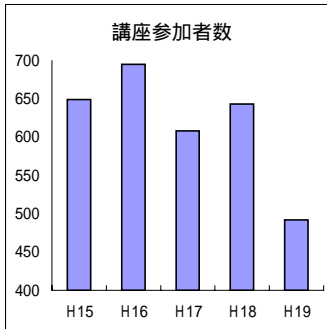
利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
入館者数(人)	28,027	21,054	25,948	27,176	20,757
講座等参加者(人)	649	695	608	643	492



利用者負担(利用料金)等

入館料	常設展	大人1000円
	企画展	別に定める



利用状況の推移	平成15年度は『若狭路博』に併せて特別展「若狭路千年」を開催し、観覧者が28,027人と大きく伸びました。前年度と比べると約50%の増加です。
	平成16年度には21,054人と前年度から25%減少したものの平成17年度には恐竜博物館の移動展などの開催により25,948人まで回復しました。
	平成18年度には文部省主催の「発掘された日本列島2006」巡回展と「発掘された若狭・越前」の2本立て・長期間の特別展の開催により観覧者数が27,176人となり、前年度比5%の増加となりました。
	平成19年度には有料の利用者数は前年度とあまり変わりなかったものの無料も含めての利用者数は前年度と比較して約23%減少しました。これはNHK朝の連続ドラマ「ちりとてちん」により小浜市街地へ観光客の足が向いたことが大きな要因で、館でもそれに関連した展示作りが必要だったと思われます。

施設の特徴

展示品 「復元武人像と盾」

嶺南地方の文化財調査の拠点

嶺南地方の文化財の調査・保護・活用活動の支援を積極的に行い、地元ならびに遠方のかたの様々な質問にもお答えしています。

親しみを持てる館作りをめざして

職員がお客様に直接説明する機会を多く設けています。企画展はもちろん常設展でもお客様の関心にあわせて解説を日常的に行っています。他にも児童・生徒の総合体験学習の受け入れや、体験的な催しを行っています。

いろいろな展示、講座の開催

- ・企画展
年1度 若狭の文化的内容をテーマとして大規模な展覧会を開催します。日頃見る機会の少ない展示品を全国各地から収集して展示します。期間中、記念講演として展示内容の関連分野の研究者を招いて講座を開催します。
- ・テーマ展
ひとつのテーマについて年に4回程度テーマ展示を開催します。
- ・郷土史講座
若狭地方の歴史・民俗・美術工芸等に関する内容で、当館職員を中心に講師を務め、講座を実施します。
- ・体験講座
主として小中学生を対象とした体験講座を夏休み・冬休み期間を中心に実施します。
- ・移動展
県立の4つの博物館から持ち回りで館蔵品の展示を開催します。



8/6考古学体験講座「本物にふれよう～考古学体験～」土器の拓本をとりよう！のひとこま

平成19年度の特徴について

事業実績	企画展：「明通寺1201 坂上田村麻呂と若狭」(10/6～11/4) 3,618人
	テーマ展：「山川家の刀剣 小浜藩土山川氏に伝えられた刀」(4/21～5/27) 2,606人 [二つの七年祭パネル展 西津七年祭と高浜七年祭](6/11～7/1) 821人 「庶民の器・伊万里」(1/3～2/7) 1,219人 「再発見!鳥浜貝塚資料」(2/16～3/3) 857人
	移動展：県立美術館「移動美術館1 三上誠新収蔵品紹介」(8/4～8/15) 521人 「移動美術館2 はな・花・華」(3/14～3/25) 825人 県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館「朝倉氏の歴史と社寺」 (8/23～9/5) 598人
	体験講座：小中学生向け 「考古学体験」 1回 一般向け 「古文書解読講座」 1回

若狭歴史民俗資料館(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	67,834	54.6%	104.2%
	退職給与引当金繰入	72	-0.1%	-118.0%
	計	67,762	54.5%	103.4%
物にかかるコスト	物件費	32,277	25.9%	100.3%
	維持補修費	515	0.4%	29.3%
	減価償却費	22,511	18.1%	100.0%
	計	55,303	44.4%	98.0%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	0.0%
	その他	1,445	1.2%	193.6%
	計	1,445	1.2%	193.6%
合計		124,510	100.0%	101.5%
収入	利用料等収入	1,632	1.3%	81.1%
	その他収入	2,785	2.2%	116.4%
	一般財源	120,093	96.5%	101.5%

バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

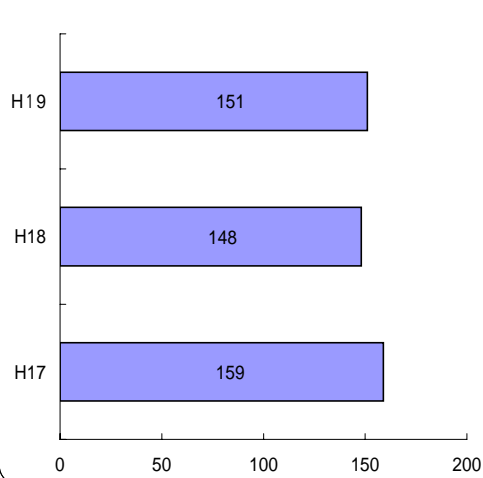
借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	715,871	97.0%	固定負債	47,658	99.8%
うち土地	24,893	100.0%	うち退職手当引当金	47,730	99.8%
うち建物	599,714	100.0%			
うち展示品	79,141	100.0%			
投資等	0	-	流動負債	0	0.0%
流動資産	0	-	正味資産	668,213	96.8%
計	715,871	97.0%	計	715,871	97.0%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	878	902	97.3%
県民1人あたり将来負担額	58	58	100.8%
世代間負担率	93.3	93.5	99.8%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コストの中で最も高い割合を占めているのは人件費で54.5%となっています。</p> <p>維持補修費については、平成18年度に中央監視装置の取替(924千円)を行っているため、前年度比29.3%と大きく減少しています。 平成19年度には、大規模な改修がなかったものの、築25年を経過するため今後は冷暖房や下水道など様々な修繕の必要性が見込まれます。</p> <p>収入の割合は、利用料等その他収入合わせても3.5%と低くなっていますが、これは、利用者の半数近くが無料対象者であることが要因であると考えられます。</p> <p>なお、将来負担となる固定負債は退職手当引当金のみですので、県民1人あたりの将来負担額は低い水準になっています。</p>
施設の目的、管理運営上、主要な事業	<p>嶺南で唯一の重要文化財承認施設として嶺南地方の文化財調査保護活動において中心的な役割を果たしています。</p> <p>管理部門：施設の維持管理、資料の保管と管理 【H20予算額：約26百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業 ... 歴史・民俗・考古等の調査研究 【H20予算額：約3百万円】 企画展開催事業 ... 企画展の開催 【H20予算額：約10百万円】</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 新規入館者の開拓 歴史愛好家などの常連客や観光客の入館が中心となっているため、地域住民に親しまれる館づくりを目指します。 施設の整備について 昭和58年に開館されて以来25年が経ち施設が老朽化しています。
今後の事業方針 取組み内容	<p>当館の目的である嶺南地域を主とした地域の歴史文化を伝えることを中心に事業を進め、県民のニーズ対応した展示等を積極的に実施していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスロビーの活用によるパネル展示 ・学校教育活動の受け入れ、支援 ・体験的講座の充実 ・広域的な広報活動 ・HPによる情報発信 等

県民1人あたりのコスト負担の状況(円)



人口100万人あたり入館者数の比較(H19)

